

# ケースワークから障がい者福祉へ。広い視野の福祉を目指して。



## 福祉貢献学部 春見 静子教授

### 【学歴・職歴】

- 1961年 東京学芸大学教育学部卒業
- 1963年 立教大学社会学研究科応用社会学専攻（社会福祉）修士課程修了
- 1963年 聖母病院（東京）医療ソーシャルワーカー
- 1965年 文部省給費留学 スイス国立フリブル大学文学部社会福祉学専攻修了
- 1971年 上智大学文学部社会学科講師
- 1980年 ドイツ国立ミュンヘン大学、マインツ大学留学（DAAD給費留学）
- 1987年 上智大学文学部社会福祉学教授
- 2003年 福井県立大学大学院看護福祉学研究所教授
- 2004年 上智大学名誉教授
- 2006年 愛知淑徳大学医療福祉学部教授
- 【受賞】
- 1993年 ドイツミュンヘン小児センターよりアクチオン・ソノンシャインメダル授与

春見先生がケースワークを志したのは50年近く前。立教大学でアメリカのケースワーカーの話聞いたのがきっかけでした。その後、文部省へ直談判して奨学金を獲得。スイスへ留学してソーシャルワーカーの資格を取得するなど、目を見張る行動力で道を切り開いて来られました。帰国後に教えた上智大学では、当時としては珍しかった実習を取り入れ、座学中心だった福祉教育に新風を吹き込みます。半世紀にわたって日本の社会福祉教育のメインストリームを歩み続けてきた先生ですが、本学へ赴任してから、実習生を送り込む施設を探すため、「手紙をたくさん書いてアタックしたと、あくまで軽やかなフットワークは変わりません。現在も研究に取り組みながら、「実習や演習を通じ、情熱や使命感、技術を持って、第一線で働けるソーシャルワーカーを育成したい」と教育に力を注いでいます。

**私**が学んだり、教えたりしてきた時代は、日本が福祉国家としてどのような道を歩むかを模索していた時代であり、自治体や厚労省などからの依頼を受けて、ヨーロッパ、特にドイツ語圏の社会福祉

**私**の専門領域は社会福祉の法論であるケースワークです。家族に対するケースワーク（家族療法）をより深く学びたいと思い、スイスに留学しましたが、すでに40年前に、そこでは社会福祉の方法は、地域福祉を基盤としておこなわれるということが当たり前で、ケースワークやグループワークやコミュニティワークが統合されたかたちで効率よく地域の福祉課題の解決のために機能している様子に感動を覚えました。

【春見先生の主要論文リスト】

- 共著 □論文
- 「ケースワーク・グループワーク」(社会福祉援助技術各論)(光生館)1994年
- 「新版 障害者福祉論」(介護福祉士選書)(健甞社)2007年
- 「社会福祉援助技術論」(光生館)2002年
- 「医療的ケアを必要とする障害者と家族への支援策に関する調査研究」(厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業)2009年
- 「ドイツ・カリタス連合体の研究7」カトリック社会福祉研究9号(長崎純心大学)2009年
- 「医療的ケアを必要とする障害者と家族に対する支援」医療福祉研究5号 愛知淑徳大学医療福祉学部 2009年

**そ**の流れの中で取り組んでいる私の研究テーマは、「医療的ケアの必要な障がい者と家族への支援」というもので、これは多領域の専門家による研究チームで、調査研究、大会の開催、政策提言などを行います。すでに3年間継続しています。

**も**うひとつの私のライフワークは、発達に障がいのある乳幼児の早期診断と早期療育の施設「うめだ・あけぼの学園」の運営とそこにおける家族支援です。これはミュンヘンの小児センターをモデルに1977年東京につくられた総合療育センターですが、最初は文字通り障がいの早期発見と早期療育のみに全力をあげて取り組んでいましたが、現在は、学校、病院などの地域の機関や施設との連携や、就学とそれ以後の支援にまで活動の範囲を広げています。

の制度や思想を日本に紹介するという仕事をこれまでになくさんしてきました。生活保護や児童福祉や障害者福祉や高齢者福祉の領域で、児童相談所やデイケアセンターや作業所がどのように作られて、運営されているかを調べるために何度もドイツやスイスを訪ねました。その流れの中で現在私が行っている研究は、「ドイツのカリタス連合体の研究」というもので、同じテーマで8年間続けています。ここから社会福祉における公私の関係についての示唆が得られることを期待しています。